



ループバック検出コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [loopback-detection enable](#) (グローバル) (2 ページ)
- [loopback-detection enable](#) (インターフェイス) (3 ページ)
- [loopback-detection interval](#) (4 ページ)
- [show loopback-detection](#) (5 ページ)

loopback-detection enable (グローバル)

ループバック検出 (LBD) 機能をグローバルに有効にするには、**loopback-detection enable** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。ループバック検出機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

loopback-detection enable

no loopback-detection enable

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

ループバック検出は無効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、ループバック検出機能をグローバルに有効にします。**loopback-detection enable** インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドを使用すると、インターフェイスでループバック検出を有効にできます。

例

次の例では、デバイスでループバック検出機能を有効にします。

```
switchxxxxxx(config)# loopback-detection enable
```

loopback-detection enable (インターフェイス)

インターフェイスでループバック検出 (LBD) 機能を有効にするには、**loopback-detection enable** インターフェイス (イーサネット、ポート チャネル) コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。インターフェイスでループバック検出機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

loopback-detection enable

no loopback-detection enable

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

ループバック検出はインターフェイスで有効になっています。

コマンドモード

インターフェイス (イーサネット、ポート チャネル) コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、インターフェイスでループバック検出を有効にします。**loopback-detection enable** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用すると、ループバック検出をグローバルに有効にします。

例

次に、ポート **gi1/0/4** でループバック検出機能を有効にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface gi1/0/4  
switchxxxxxx(config-if)# loopback-detection enable
```

loopback-detection interval

LBD パケット間の間隔を設定するには、**loopback-detection interval** グローバル コンフィギュレーションモードコマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

loopback-detection interval *seconds*

no loopback-detection interval

パラメータ

seconds : LBD パケット間の間隔を秒単位で指定します。(範囲 : 10 ~ 60 秒)

デフォルト設定

LBD パケット間のデフォルトの間隔は 30 秒です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、LBD パケット間の間隔を 45 秒に設定します。

```
switchxxxxxx(config)# loopback-detection interval 45
```

show loopback-detection

ループバック検出の情報を表示するには、**show loopback-detection** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

```
show loopback-detection [interface-id | detailed]
```

パラメータ

- **interface-id** : (オプション) インターフェイス ID を指定します。インターフェイス ID は次のタイプのいずれかです。イーサネット ポートまたはポート チャネル。
- **detailed** : (オプション) 現在のポートに加えて、現在のポート以外のポートの情報を表示します。これが設定されていない場合、デフォルトでは、存在するすべてのポートが表示されます。

デフォルト設定

すべてのポートが表示されます。**detailed** を使用しないと、提供ポートについてのみ表示されます。

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

動作ステータス **Active** は、次の条件を満たしていることを確認します。

- ループバックはグローバルに有効になっています。
- ループバックはインターフェイスで有効になっています。
- インターフェイスの動作状態は **up** です。
- インターフェイスの STP の状態が **Forwarding** または STP の状態が無効になっています。

LoopDetected の動作ステータスは、インターフェイスが **errDisabled** 状態になったことを示します。

動作ステータス **Inactive** は、ループバック検出がループを積極的に検出しないことを示します。つまり、**Active** ステータス条件が満たされていません。

例

次の例では、ループバック検出のステータスの情報を示します。

show loopback-detection

Console# show loopback-detection		
Loopback detection: Enabled		
LBD packets interval: 30 Seconds		
Interface	Loopback Detection	Loopback Detection
-----	Admin State	Operational State
gi1/0/1	-----	-----
gi1/0/2	Enabled	Active
gi1/0/3	Enabled	LoopDetected
gi1/0/4	Enabled	Inactive
	Disabled	Inactive

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。